

第5学年 総合的な学習の時間 指導案

八王子市立由木西小学校
平成24年10月26日（金）5校時
5年1組 男子11名 女子12名

1 単元名「由木西米を育てよう」

2 単元のねらい

- (1) 米作りを通して、自らの課題を見つけ、主体的に探究できるようにする。
- (2) 友だちや人とのかかわりを通して、互いに学び合うことができるようにする。
- (3) 学んだことをもとに、広く食について考えることができるようにする。

3 評価規準

主体的・創造的・共同的態度	課題発見・課題解決	学び方・考え方	かかわり方・生き方
・栽培した米の活用について、自分の考えをもち、進んで活動できる。 ・友だちと連携しながら作業を進めることができる。	・米づくりの中から、課題や疑問を見付け、解決していこうとする。 ・米の活用法について課題を見付け、解決していくことができる。	・米づくりや流通の工夫などの理解を深め、自分たちの活動と重ね合わせることができる。 ・友だちと意見を交わしながら、考えを深めていくことができる。	・米づくりを通して、自然や地域の人とのつながりを深めていくことができる。 ・米づくりを通して、食生活全般に対して考えを深めることができる。

4 研究主題とのかかわり

(1) 食の視点

- ・ 正しい知識・情報に基づいて、食品の品質及び安全等について自ら判断する。
- ・ 食物を大事にし、食物の生産等にかかわる人々へ感謝する。

(2) 単元について

米は日本人の主食である。しかし、近年の食の多様化による米の消費量の減少や、作付面積の減少、高齢化や後継者不足など、稲作農家がかかえる課題は少なくない。そのような中で、米づくりにたずさわる人々は、単位効率よく米を生産しているだけでなく、それぞれの地域の自然条件を生かし、安全で美味しい米づくりを目指している。社会で学習した内容を踏まえ、実際に自分たちで取り組んでみる意義はとても大きい。

本校の田んぼでは毎年5年生が総合的な学習の時間の中でもち米を作っている。米づくりの体験をすると同時に収穫後には餅つき大会を催し、全校のその日の給食となる。日頃できない活動を楽しく体験したり、美味しく食べたりする機会となっている。もちろん全校の期待を受け、自分たちの責任は大きい、それだけに成功したときの喜びや達成感も大きなものとなっている。本校の米づくりは、自分たちで食べるものを自分たちで作ることができる貴重な体験活動である。今回の米づくりでは、できるだけ児童の主体的な活動を促しながら取り組みをすすめてきた。

さらに、今年度は収穫後すぐにもちつき大会を実施するのではなく、米づくりにかかわってきた自分たちの思いを表現させる活動を入れる。きっと子どもたちの中には、安全で美味しいお米であるということ表現する子も多くいるだろう。その思いは、生産者の思いに通じる部分があることに気付くはずである。

5 児童の実態

1学期には田おこし、代掻き、田植え、雑草取り、水の管理などの仕事を通して、米作りの楽しさや苦労を体験してきた。稲作に興味をもち、毎朝、田んぼに通う児童も多く、前向きに取り組む児童が多かった。課題解決学習にも取り組み、動植物のことを深く理解したり、田んぼと環境との結びつきを理解したりすることができた。

夏休み中も観察を続けた子ども達は、稲が生長する過程で、喜びや苦労を学んで来た。その中でも、虫や鳥に食べられる不安や雑草を除く苦労など、大変な作業を体験することにより、農家の人の努力や苦労の一部を理解することができた。この体験から、作物を大切にしようとする気持ちも育ってきたようである。

実が入ってきた頃、子ども達は光沢面を外側にした CD や案山子、疑似カラスやペットボトルの風車など、鳥よけのための工夫を自分たちで進めていた。また、台風が接近した時には稲のことを心配していた子どもも多く、米づくりへの関心が高いことを再確認することができた。

6 指導の具体的な手立て

(1) 実物の提示

今回は食品表示に基づいた表示を確認し、自分たちの収穫した米も同様に記入することにより、食品の品質や安全などを意識させる。

(2) 思いを形にする課題設定

実際に米作りにかかわってきた児童だからわかる工夫や努力を米袋に表現し、プレゼントする各学年にメッセージとして伝えたい。一生懸命作ってきたものだから大切にしてほしいという自分たちの思いは、普段自分たちが食べている物を大事にし、生産している人たちへ感謝する気持ちへとつながっていくはずである。

7 指導計画

- ・ 「由木西米を食べよう」(13時間)
- ・ 稲刈り 2時間
- ・ 米袋をつくろう 3時間(本時2/3)
- ・ 脱穀 2時間
- ・ 粃すり、精米 2時間
- ・ 餅つき集会 4時間

8 本時について

(1) ねらい

- ・ 自分たちの経験をもとに、お米の生産にかかわる人の気持ちを考えることができる。(食育)
- ・ 気持ちが伝わる米袋を、みんなで協力して作ることができる。(総合的な学習の時間)

(2) 展開

児童の主な活動	○指導上の留意点 ☆評価
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> <h2 style="margin: 0;">米 袋 を 作 ろ う</h2> </div>	
1 今までの米作りの活動をふり返る。	○ 取り組んできたことを思い出すための資料を掲示する。 (写真、稲作カレンダー 個人資料)
2 お米袋に書きたい、自分のメッセージを考える。	☆ 自分の思いを書くことができる。 ＜食育＞
3 班の中で発表し合い、まとめる。 決まった内容を記入する。	○ 自分の気付かなかったこと、良い表現などを互いに確認し合う。 ☆ 友だちの意見を参考にしながら自分たちの思いをまとめることができる。
4 お米袋に表示するキャラクターやキャッチフレーズを決める。 決まったものを書いていく。	○ 事前に考えさせておいたものを参考にしても良い。 ☆ 自分たちの思いが伝わるようなものを考えることができる。
5 学習のまとめ 自分たちの経験から、お米の生産にかかわる人の気持ちを考える。	☆ 生産者の気持ちを考えることができる。 ＜食育＞ ○ 次回は出来上がった袋にお米を詰め、各学年に持って行くことを伝える。